

第1回トラック輸送における取引環境・労働時間改善奈良県地方協議会 議事概要

※各議題については、配布資料に沿って説明。

※奈良県地方協議会要綱第3条第2項により座長は帝塚山大学の蓮花副学長が選出された。

議題2・3終了後

蓮花座長

- ・労災件数について、例えば従業員1万人あたりの件数というデータにすると、より業種間の比較がわかりやすくなると思う。
- ・パイロット事業についてイメージしにくいので、もう少し説明いただきたい。

事務局（近畿運輸局 後藤貨物課長）

- ・明確に内容は決まっていないが、今回の資料にある「トラック運転者労働条件改善事業（厚生労働省）」に近いイメージになるものと考えている。

嶋本委員（奈良県商工会連合会 専務理事）

- ・郵便物・宅配便などは今日発送したら、明日には全国どこにでも届く。スーパーなどでは今夜発送したものが翌日には店頭に並ぶのが、当たり前前のサービスになっている。事業主としてはこれに答えなければならない。そうすると便を増やすか、早く行くしかない。
- ・奈良県商工会連合会には運送業者も会員にいますが、中小企業の中でも小規模なところが多い。中継基地の整備・スピードアップ・人を増やすなどの対応には耐えられないと思う。物流全体の環境として、これまでどうだったのかをお聞きしたい。

事務局（近畿運輸局 後藤貨物課長）

- ・運送事業者と荷主の対応だけでは限界があり、消費者の存在も大きい。奈良の協議会で消費者への対応ができるかはわからないが、マスコミなどを通じて、現在の便利なサービスが妥当なのかといった問題について、発信できたらとは考えている。

櫻井委員（奈良県中小企業団体中央会 専務理事）

- ・消費者へのアピールについては、便利なサービスに対する適正な対価について訴えるしかない。値上げについて理解をいただくということになると思うが、受け入れていただくには、トラック事業の現状についてアピールする必要がある。
- ・先日のトラックの事業者大会でも「人手不足」が大きなテーマであった。労働が厳しい・賃金が安いなどの現状をアピールをしていくこととなるのかと思う。
- ・荷主に関しては、待ち時間については、電子化が進んでいるので、連絡をリアルタイムにすることで一定の改善はできると思うが、人手不足・労務環境・賃金を考えると運賃値

上げについて理解いただくしかないと思う。このような考え方は成り立つのか、あるいは他の考え方があるのかというのをお聞きしたい。

事務局（近畿運輸局 金指自動車交通部長）

- ・この協議会の出発点は、法律改正がきっかけではあるが、元々トラック事業を含む物流産業が抱える構造的な問題について、具体的に議論していきたい。
- ・運賃の適正水準の問題も視野に入っているが、そこだけを議論するのではなく、まずは実態を共有し、そこから何ができるかを検討していくことを考えている。問題点として皆様が感じていることについては、全て視野に入れて取り組んでいく。

蓮花座長

- ・お中元などを受け取る際も、再配達をしていただくことで、1～2時間程度かかっているのかと思うと、個人的には申し訳ないと思う。市民への啓発は当然必要と思う。値上げという方法も考えられる。国全体もそうだが、地域の現状に応じた対応が必要になってくる。

神田委員（奈良県経済産業協会 専務理事）

- ・労働時間・人材不足の問題は、運送業者・荷主・消費者の話に加えて、最低賃金・インフラ整備の遅れなども関連していると思う。部分ではなく、総合的に考えることにより解決の道が見えてくると思う。本日の協議会で表面的な問題は理解できたが、実態調査などを通じて課題を共有できたらと思う。

議題4終了後

蓮花座長

- ・実態調査はサンプリングが重要。企業規模・運転手の年齢層など、具体的な考えがあれば教えていただきたい。

事務局（近畿運輸局 後藤貨物課長）

- ・トラック協会の会員に対して実施する。特積・貸切の別、保有車両数などを検討している府県もある。トラック協会と調整させていただきたい。

蓮花座長

- ・全体的な傾向が把握できるように調査をしていただきたいと思う。

内藤委員（全日本運輸産業労働組合奈良県連合会 執行委員長）

- ・この協議会に参加させていただき、感謝している。

- ・奈良県内のトラック事業者は、奈良県内の荷主だけを扱っているわけではない。例えば大阪往復だけで2時間は労働時間が長くなるし、空車距離が長くなる。そのような事情を考慮することも検討いただきたい。

蓮花座長

- ・理想的なサンプリングは非常に難しいが、できるだけ幅広く20社を選んでいただきたい。
- ・全国の調査のバランスを考える必要があるが、事業者の特徴・ドライバーの属性を記録しておくだけで分析するときには参考になる。

全体を通じて

蓮花座長

- ・ドライバーの長時間労働の実態を把握するのは重要だが、原因を知るために、荷主・運行管理者・社長などへの聞き取りなどはあっていいのではないかなと思う。

事務局（近畿運輸局 後藤貨物課長）

- ・実態調査のフォーマットを本日示すことはできないが、全国統一のものとなる。乗務員向けの調査票は、時間軸で実態を把握するイメージである。それとは別に事業者向けの調査票も用意する予定であるので、事業者の属性は把握できるのではないかと考えている。